

**No.20**

柏市政や柏市の出来事についてご報告します。

山下洋輔新聞

柏市議

無所属

39 歳

ボランティア募集！

山下洋輔は、クリーンな政治を目指しています。皆様のお力が必要です。この新聞を配布して下さる方を募集しています。散歩がてら、ご近所だけなど、何枚でもかまいません。地域をよりよくするため、一緒に活動しましょう。

2017年8月21日

市議会議員は、どんな活動をしているか。どのような考えで、活動しているか。報告していきます。

○ 柏駅前に文化・教育の拠点を！

柏市議会で、図書館について議論してきました。そごう跡地に、文化・教育の拠点となる複合施設を設置することも提案しています。

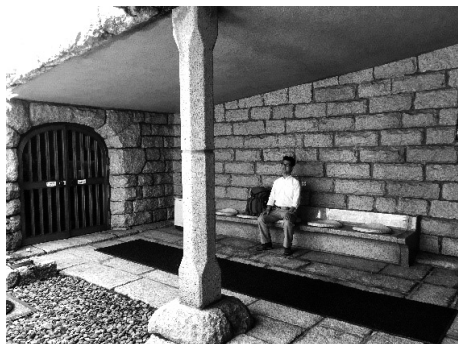
柏市の図書館書庫、行政資料室、文化財収蔵庫、学校図書館支援センター、教育センターの課題をそれぞれ指摘し、その解決策を示しました。一つ一つの課題に対処療法的な改修事業を実施するのではなく、どんな都市を目指すのか明確なビジョンを示し、これからの柏市を引っ張っていくことが、今、求められています。

8年前の図書館建設中止以降、停滞してしまっている議論を巻き起こすことです。

いわゆる図書館だけではなく、博物館、美術館、公文書館、教育センター、子育て支援センターが、組織の垣根を越えて融合した文化施設を構想しています。

全国の地方都市の駅前で百貨店が撤退しています。この事態をチャンスとして考え、文化・教育を中心にすえた「住みよいまち」というビジョンを、柏駅前で実現できれば、柏市の魅力を全国に発信することになります。

○ 市の宝を倉庫で眠らせておくのはもったいない



芹沢銈介（けいすけ）氏は、「型絵染」で人間国宝に認定された染色工芸家です。民藝運動の主要人物でもあります。柏市には、砂川七郎氏が収集した芹沢銈介作品が多数所蔵されています。柏市の誇る世界屈指のコレクションです。静岡市芹沢銈介美術館を訪問し、柏市の砂川コレクションについてのご意見やアイデアを頂きました。

これまで議会でも、芹沢銈介作品の活用と学芸員の設置などについて議論してきました。

死蔵することなく、調査研究し、公開し、「美と暮らしがとけあう」社会に役立てていくことが、芹沢銈介氏の考えにも合うものと考えます。あらためて、芹沢作品が展示されていた砂川美術館のリニューアルオープンなど文化施設の整備を提案していきます。

山下洋輔のプロフィール

1978年4月生まれ。39歳。

東葛飾高校卒業。早稲田大学教育学部卒。同大学院修士課程修了後、土浦日大高校にて教諭。早稲田大学大学院教育学研究科博士課程を単位取得後退学。

「柏まちなかカレッジ」学長として市民大学を主宰し、地域の教育・文化を盛り上げている。

【趣味・特技】歴史散策、剣道（三段）、絵画、カポエィラ、三線、バイク、JAZZ鑑賞

【家族】妻、長男（2014年生まれ）、長女（2017年生まれ）

※タイトルのイラストは、『ひとりごはんの背中』（講談社）で著者の能町みね子さんの取材を受け、描いて頂いたものを使用しています。

柏まちづくり倶楽部開催（毎月最終木曜日 19時～）

参加ご希望の方は、ご連絡ください。
連絡先は裏面に記載しています。

○ まちは劇場！-静岡市美術館を視察

「柏市には美術館がない!」ということで、美術館について調査研究を続けています。6月には、静岡市の静岡市立美術館を視察しました。静岡市は、平成22年に静岡駅前の再開発ビルに美術館を整備。

静岡市は創造性のあふれる都市を目指し、地域資源に新しい価値を与え、経済を活性化させるものです。「まちは劇場!」というスローガンを掲げ、文化施設の連携、路上など公共空間を活用したストリートパフォーマンスなどに力を入れ、創造都市（Creative City）を目指しています。

東静岡アート & スポーツ / ヒロバも視察。2020年東京五輪から正式種目になるスケートボードの大会ができるスケボーパークが整備されています。

柏しょうなんゆめファームのスケボーパークやBMXコースも注目されています。公共空間を活用し、まちなかでスケボーのできるエリアを作ることも研究していきたいです。



○ イオンモールに設置された市立図書館



柏市とふるさと交流都市である青森県つがる市（旧・柏村）のイオンモールに、昨年7月に新設された図書館を視察。市にとっては用地買収と駐車場（その雪かきも）の費用の負担もなくなり、イオンにとっては集客力が見込めることで、市民の念願であった図書館が実現。商業施設に設置したことで、相乗効果も見られる一方で、書庫などの課題も感じます。

「この図書館を誇りに思う」という小中学生の声もあり、若者の市内流出にも効果も期待できるとのコメントをお聴きしました。積雪や経済衰退など、地方の深刻な現状も、足を運ぶことで感じます。

○ 部活動のこれから

柏市の部活動に関するガイドラインで「量より質への転換」が示されました。活動量を減らすだけでなく、もっと踏み込んだ議論が必要です。

部活動を学校から地域に移そうという議論も繰り返されてきました。中学生の部活動を支えられるような総合型地域スポーツクラブの育成は、地域の生涯学習、生涯スポーツの活性化にもつながります。

部活動への外部人材の活用についても検討されています。これまで教員が肩代わりしてきた労働への財源の確保が必要となり、部活動の規模縮小も心配されます。

生徒数が減り、部の種類が減り、自分の希望する競技や活動が中学校で出来なくなっています。学校対抗での大会のあり方も見直す時期にきています。子どもたちの学ぶ機会を保障するためにも、しっかり考えるべき課題です。

社会が多様化し、学校のあり方も問い直されています。知識の詰め込みより、協働する力や学び続ける姿勢が求められるようになりました。部活動改革は、学校改革と表裏一体です。部活動のこれからを話すことは、学校のこれからを話すことでもあります。

山下から一言

2020年は、柏市鷺野谷が生んだ近代日本を代表とする宗教思想家である山崎弁栄上人没後 100年の年です。没後100年を顕彰する特別企画を、弁栄上人とゆかりのある全国各地の都市にも呼びかけ、準備するよう議会で提案しました。

連絡先 TEL:04-7170-0668 FAX:03-6745-9416(※eFaxを使用) Mail: info@y-yamasita.com

以下、山下の活動や考えたことを報告しています。山下の日常の記録です。ご感想やご意見もお寄せ下さい。

[twitter] @yosukekayama [facebook] <http://facebook.com/yosukekayama>

[HP] <http://y-yamasita.com> (ブログほぼ毎日更新してます!)